福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和７年７月１７日（木）

２　確認箇所

多核種除去設備等処理水測定・確認用設備（図１）

３　確認項目

多核種除去設備等処理水の試料採取状況

４　確認結果の概要

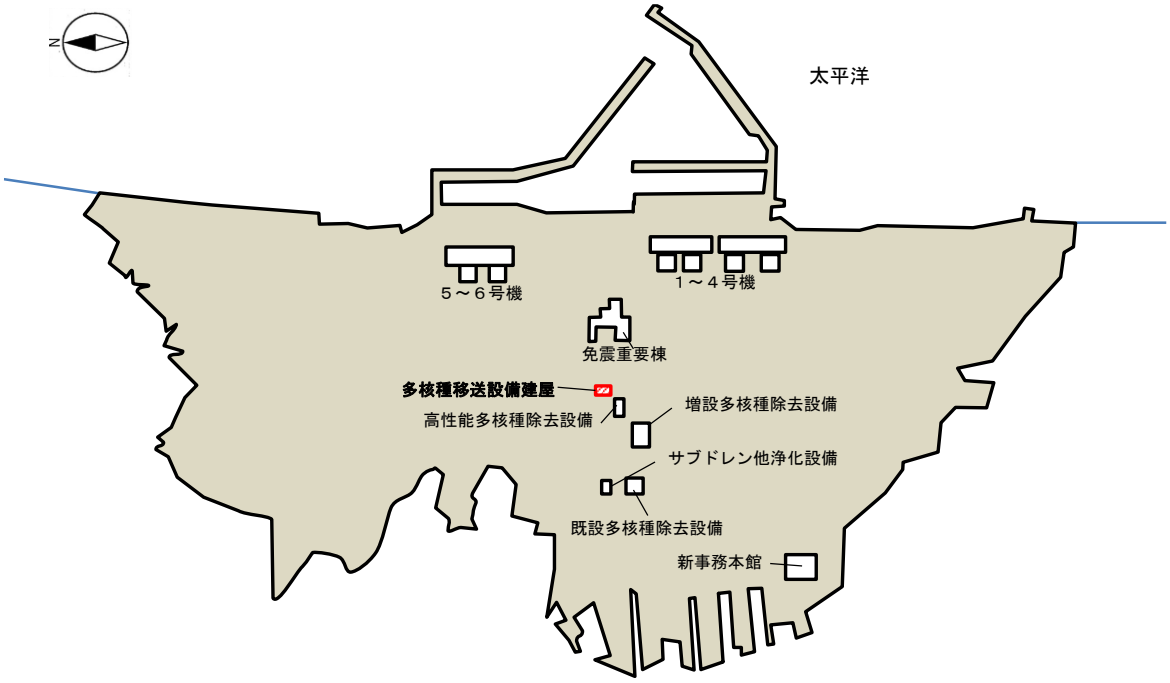
東京電力は、多核種除去設備等処理水（以下「ＡＬＰＳ処理水」という。）の海洋放出に際して、希釈前のＡＬＰＳ処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。（トリチウム濃度は、ＡＬＰＳ処理水を海水で希釈した放流水について法令上の基準(60,000Bq/L)はもとより、運用目標の(1,500Bq/L)も満足させている。）

東京電力では、ＡＬＰＳ処理水の第１５回目（令和７年度第４回目）の放出に向けて、Ｇ５エリアＥ／Ｃ／Ｂ群のタンクに貯留しているＡＬＰＳ処理水を測定・確認用タンク（Ｂ群）に移送後、７月１０日から循環攪拌運転を行っている。

本日は、希釈前の放射性核種濃度及び水質測定用のＡＬＰＳ処理水の試料採取が行われることから、その状況や手順を確認した。（前回確認：令和７年６月１７日）

・サンプリングは、サンプルタンク循環ポンプが設置されている多核種移送設備建屋（以下「建屋」という。）のサンプリングラインＡ系から行われ、採水については、ＩＡＥＡ職員による確認が行われた。（写真１）
・建屋入口付近には、サンプリングした試料を仮置きするクリーンエリアが設置され、ここで試料を採取したポリ瓶への所定のラベリング及び封印などの処置が施されていた。（写真２）
・サンプリングは、はじめに配管のフラッシングを実施した後、事前の採取計画に従い手順どおり、分析機関ごとに容器を分けて試料の採取が行われた。
・サンプリングの際は、バルブ操作者と採取者でしっかりと声かけがなされており、サンプリング時に試料容器から水が溢れたり、周りに水が飛散したりすることはなく、適切に行われていた。
・当日、東京電力社員５名ほどが監理員として作業に立会っており、サンプリングラックの近くで、手順に誤りがないか確認を行っていた。また、サンプ

リングした試料をクリーンエリアに置く際に、水の滴下がないか、採水容器に水滴が付着していないかの確認を行っていた。（写真３）



（図１）福島第一原子力発電所構内概略図

（写真１－１）
サンプリングの状況①

（写真１－２）
サンプリングの状況②
（IAEA 現地職員による確認）

（写真２－１）
東京電力社員による採取済のポリ瓶へのシーリング実施状況

（写真２－２）
封印済みポリ瓶にＩＡＥＡ職員が署名を行っている状況

（写真２－３）
クリーンエリアにおけるサンプリング後の状況

（写真３）
東京電力職員によるサンプリング状況の確認

５　プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。